



しょうれん 力障連「わ」かい 報ほう

<http://challenged-catholic.net/> No.94 2021.12.14 発行

もくじ 目次

かんとうげん か 巻頭言に代えて 「エッフアタ」の東京パラのさわやかに	とうきょう 日本カトリック障害者連絡協議会を支える会 会長 前田 万葉 枢機卿	1
ぜんこく しょうがい 全国の障害のある仲間を知るシリーズ	にほん 日本カトリック聴覚障害者の会 会長 白柳 聡	2
きつおん 吃音グループ・ノトケールの会	かい 事務局 佐藤 了 助祭	3
とうきょう 東京オリブの会	かい 代表 吉田 久枝	4
かいさい さんせい はんたい かんぞう パラリンピック開催に賛成・反対・感想について	事務局 小池 政男	5
どくしゃ いけん かいとう 読者からのご意見とその回答について	事務局 小池 政男	11

かんとうげん か 巻頭言に代えて

「エッフアタ」の とうきょう 東京パラのさわやかに

にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい ささ かい
日本カトリック障害者連絡協議会を支える会
かいちょう まえだ まんよう すうききょう
会長 前田 万葉 枢機卿

十 キリストの平和

しんがた かんせんしょう せ かい せつけん
新型コロナウイルス感染症が世界を席巻
して2年が経過します。その影響は私たち
教会にも大きな影響をもたらしました。信者
が安心して教会のミサ聖祭に集う事もまま
ならず、また教会活動、日常生活の中でも
極めて深刻な影響を受けています。中でも
重度の障害者は感染すれば命にも深刻な影響
がもたらされるという、大きな不安の中で
の生活を強いられてきました。また、コロ
ナ禍により仕事を解雇され、食べるものも

なく、居場所すら無くした弱い立場の人、
外国人技能実習生をはじめとした外国人の人々
の生活は、極めて深刻な状況に置かれまし
た。教皇フランシスコも、「新型コロナウイルス
感染症のパンデミックのために苦しんで
いる世界中の人々のことを思うとき」(2021
年病者の日メッセージ)と、呼びかけています。

このような状況下の中、日本カトリック
障害者連絡協議会(以下カ障連)も活動その
ものが極端な制限を受け、年1回開催されて
きた加盟団体との意見交換会も中止。役員会
もズーム会議にと影響を受けてきました。何
より今年秋に開催が予定されていた第14回カ
障連長崎大会が開催出来ず、来年の秋に延期
となりました。多くの準備をしてくださって
いる関係者の皆さまには、長いご苦勞をかけ
ていますことを心より感謝申し上げます。

私たちはこの事態を神から与えられた試練
と受け止め、またこのような時だからこそ

さら こんなん かか ひと よ そ
更に困難を抱えている人たちに寄り添える
かつどう め ざ
活動を目指さなければなりません。イエスは、
ほんにん つみ おか りようしん つみ おか
「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯し
たからでもない。神の業がこの人に現れるた
めである。」(ヨハネ9・3)という宣教者の
使命を障害者にも届けておられるのです。わ
たしは、とうきよう
東京パラリンピックにその証を見た
ような気がいたします(「エッファタ」の東京
パラのさわやかに)。共に寄り添い、疎外せず、
ともに せんきようしゃ
共に宣教者となってまいりましょう。

さいご
最後になりましたが、昨年(さくねん)も当「支える
会」に90万円にも及ぶ支援金をいただき
ましたことを心から感謝申し上げます。特
に、ようちえん がっこう みな
カトリック幼稚園や学校の皆さまから

こうがくけんきん こころう しょうきょうく
の高額献金には心打たれました。小教区、
しゅうどうかい がっこう かくしゅだんたい みな
修道会、学校はじめ各種団体の皆さまもポ
ストコロナを見据えた準備と活動が行われ
ますよう心よりお祈り申し上げます。また、
2022年のカ障連全国大会(ねん しょうれんぜんこくたいかい)が長崎(ながさき)で無事開催
されるためにも、来年度のご支援を賜ります
よう、か き ふりこ りかい きようりよく
下記へのお振込みにご理解とご協力の
ほど心よりお願い申し上げます。

ふりこみさき ゆうびんきょくふりかえ
振込先：郵便局振替

こうざばんごう
口座番号 00830-6-45785

かにゅうしゃめい しょうれん ささ かい
加入者名：カ障連を支える会

ぜんこく しょうがい 全国の障害のある なかま し 仲間を知るシリーズ

にほん 日本カトリック

ちょうかくしょうがいしゃ かい 聴覚障害者の会(日カ聴会)

かいちょう しらやなぎ さとし
会長 白柳 聡

とうかい
当会は1983年に京都河原町教会(ねん きょうとかわらまちきょうかい)で初めて
100名くらい集まり、1986年9月には第1
かいたいかい よこはま
回大会が横浜カトリックセンターで開催され
ました。同年12月に「カ障連」の構成団体
かにゅう いらい ことし ねんめ むかし
に加入して以来、今年で35年目です。昔は
しんじゃ めい いま
ろう信者が100名ほどいましたが、今は60
めい へ げんざい さつぽろ とうきよう よこはま
名くらいに減り、現在、札幌、東京、横浜、
なごや ひろしま ながさき かくきょうくちょうかくしょうがいしゃ かい
名古屋、広島、長崎の各教区聴覚障害者の会
ちゅうしん かつどうちゅう
が中心となって活動中です。

さくねん がつ いご か ひこうかい
昨年1月以後、コロナ禍によりミサ非公開
がつづいていましたが、Zoomによる会議を開
いて、各教区の教会ミサ情報を交換したり、
じまくつ しゅわつうやくつ どうが
字幕付きや手話通訳付きのYouTube動画ミ
サ情報を知らせ合ったりして、今までになか

がぞうぎじゅつ ひろ
った「つながり」や「画像技術」が広がり、
ゆういぎ めん
有意義な面がたくさんありました。来年には
だい かいめ にっ ちょうかいたいかい かのう
第13回目的「日カ聴会大会」が可能かどうか、
もくそうかい けんとうちゅう
また、黙想会も検討中です。

じゅうよう かだい らいねん
これからの重要な課題として、来年にミサ
しきしだい へんこう ともな しゅわ
式次第が変更されることに伴い、「手話でさ
さげるミサ」本改訂のために全国手話研究会
ぜんこく しゅわけんきゅういん かいぎ はな
では、全国の手話研究員がZoom会議で話し
あ しゅわ しきしだい さいけんきゅう はじ
合い、手話ミサ式次第の再研究を始めていま
す。わたし かつどう つづ
私たちの活動はこれからもずっと続きます
す!!!



にほん ちょうかくしょうがいしゃ かい かつどうしょうかい 日本カトリック聴覚障害者の会 活動紹介

- 1983年10月
ぜんこくちょうかくしょうがいしゃ つど かいさい きょうと
「全国聴覚障害者の集い」開催。(京都
かわらまちきょうかい
河原町教会にて)
- 1985年9月

カトリック手話研究会開催。(静岡県
裾野市の聖心会山の家にて)

- 1986年9月
第1回「全国カトリック聴覚障害者大会」
(以下「全力聴大会」)開催。(横浜カトリックセンターにて)
- 1986年12月
臨時司教集会で「全力聴会」が公認され、「カ
障連」の構成団体として活動を始める。
- 1989年9月
第2回「全力聴大会」長崎大会開催。
- 1990年4月
「手話によるミサ式次第」書がカトリック
中央協議会から発行される。
- 1992年10月
第3回「全力聴大会」大阪大会開催。
- 1995年9月
第4回「全力聴大会」名古屋大会開催。
- 1998年7月
第5回「全力聴大会」北海道大会開催。
- 2001年8月
カトリック中央協議会より「日本カトリッ
ク聴覚障害者の会」(以下「日カ聴会」)が
公認団体として承認される。
- 2001年9月
第6回「日カ聴大会」東京大会開催。
- 2004年10月
第7回「日カ聴大会」広島大会開催。
- 2007年9月
第8回「日カ聴大会」長崎大会開催。
- 2010年10月
「カトリック用語の手話表現」と
「使徒信条の手話表現」冊子を全国で発行。
- 2010年10月
第9回「日カ聴大会」横浜大会開催。
- 2012年7月
「日々の祈りの手話表現」冊子を全国で
発行。
- 2013年9月

第10回「日カ聴大会」札幌大会開催。

- 2016年8月
第11回「日カ聴大会」名古屋大会開催。
- 2019年9月
第12回「日カ聴大会」東京大会開催。

【今後の活動予定】

- ※第13回「日カ聴大会」総会開催。
- ※全国の会員による黙想会(岡山予定)
- ※ミサ式次第変更のため、全国手話研究会
にて「手話でささげるミサ」本の
手話改訂研究

【現在の日本カトリック聴覚障害者の 会公認団体】

- *カトリック札幌司教区聴覚障害者の会
- *東京カトリック聴覚障害者の会
- *横浜教区聴覚障害者の会
- *カトリック名古屋教区聴覚障害者の会
- *広島教区聴覚障がい者と健聴者の集
い「主和の輪」
- *長崎カトリック聴覚障害者の会・
長崎支部「主和会」・佐世保支部「み
ことば会」



きつおん 吃音グループ・

ノトケールの会

事務局長 佐藤 了 助祭

「ついに同志が現れた！」2018年12月のあ
る日、ドミニコ会フランス・トゥール修道院
に暮らしていた私は心で叫んだ。日本から
届いたカトリック新聞のその号には、全国カ
障連の役員でもある田中実氏が、カトリック

吃音者グループを結成したとの記事。私はすぐに、参加したい旨を手紙にしたため、カシヨレンジむきよく じゅうしよ たなか しあて こくさいゆうびん おく 障連事務局の住所へ田中氏宛の国際郵便を送った。私自身、物心ついてからの吃音障害で、家庭、学校、職場、そして教会でも、無理解と偏見にさらされて、人生をしんどいと感じ続けてきた。同時に、その経験が私の中でキリストへの信仰を強め深めたのも事実。だから、いつか教会内で同じ障害を持つ人たちと交流したいという思いを抱いていた。この出来事がきっかけの一つにもなって日本の教会で働きたいという意思を固めた私は、12年暮らしたフランスから2020年に帰国した。

「言葉を話す」という人間の根本的な行為に関するこの障害によって、当事者は生活全般にわたって大きな困難に直面する。そして、世の中での吃音者への侮蔑・嘲笑。「ほかの障害に比べれば大したことではない」とか、「どんな人間にもそれぞれ悩みがある」などと、的外れな「障害の無化」によって、吃音者がなおさら苦しめられることも多い。科学的に原因も特定されず、有効な治療法も発見されていない吃音について、「こうすれば治る」などといった根拠のない様々な俗説が流布され、何の専門的知識もない非吃音者によって、「なぜ治さないのか」と吃音者が傷つけられることも。教会として例外ではない。だから、私たちは教会の中であえて活動を始めた。

現在、グループは全国カ障連に加盟し、正会員と賛助会員・ネット会員合わせて名簿上は20名足らず。目下、教会外へも開きながら、まずは教会内で存在を知ってもらい、つながりを作ることにあたっている。ちなみに、グループの愛称「ノトケールの会」は、吃音者の守護福者Notker Balbulus (840? -912 ベネディクト会士) に由来。カトリック信仰と吃音障害を軸に体験を分かち合いながら啓発に取り組むことを目的としつつ、

カトリック信者でない人、吃音当事者でない人もメンバーに迎え、広い視野を持って豊かな出会いを生きることを目指している。

とうきょう かい 東京オリーブの会

だいひょう よしだ ひさえ
代表 吉田 久枝

「東京オリーブの会」は精神障がい者及びその家族の自助グループです。

世の中がますます複雑化し、生きづらさ、精神を病む人が増え続けています。

精神障がい者がこれからの世の中を生き抜くために、同じ信仰を祈り生きる者、同じ障がいのある者同士が出会い、交わりをもつことにより、平和と希望そして生きる力が与えられることを願って2000年2月に始めました。

弱さの中で神に愛されていることを信じ、弱さの中から福音を生きる喜びを伝え合うことができるように願っています。

皆さまのご参加をお待ちしています。共に歩みましょう。

東京オリーブの会が大切にしたいこと

●病気の症状や生活状況の困難さなどで、参加しにくい人が安心してメンバーでいられる、参加できるよう心掛けています。

例会に出られないメンバーには手紙や、電話で連絡を取って体調や近況を話しあい、特に一人暮らしのメンバーが多いので孤立しないよう、ぬくもりのある交流を大切にしています。

殊にここ数年のコロナウイルスの脅威は尋常でなく、感染リスクに怯えストレスも限界、一日中誰ともしゃべっておらず外出もできない。主治医の受診も躊躇していると悲痛な叫びがあり、やっと生の声が聞けて安心して話すと話す仲間の声に、あらためて緊急時の電話のありがたさを痛感します。

※定例会
偶数月（4・6・8・10・12月）の第2
日曜日 午後2時から4時
場所 幼きイエス会（ニコラ・バレ）
JR四ツ谷駅下車2分
但し2月の「世界病者の日」はカテド
ラルのカトリックセンターで行います。

※黙想会
司祭、教会関係者など多くの講師に依頼
（心の病当事者に直接出会い、ともに祈り

この病気を理解していただくことをも願う）
※散策、学習会、バザー出店（教会ほか）
※年会費 1,000円（通信費、会場費など
に使用します）
※日本カトリック障害者連絡協議会に加盟

「東京オリブの会」連絡先
201-0012 東京都狛江市市中和泉5-16-6
吉田久枝方
TEL 090-1408-1591

●ともに祈る
お互いが体調や生活を素のままに見つめて
分かち合うなかでの祈りは、神への信頼をよ
り強くし生きる力に高められています。

●仲間を訪ねる
心を病む仲間は私たちだけではなく全国に
います。そして幸いにも私たちは「カトリッ
ク障害者連絡協議会」（カ障連）に加盟して
おり、3年ごとの全国大会の誘いを受けてい
ます。

私たちの病は回復したかのように思える時
でも突如、体調を崩して症状が悪化してしま
うことがあります。体調に波があり、いつ
もピンピン元気というわけではありません。

一人で遠くに旅することが難しい仲間がほと
んどです。

そんな中でカ障連の全国大会は絶好のチャ
ンス、自己負担費用も考慮され少なくて済む
（それでも私たち毎月ぎりぎりの生活費を何
とかやりくりしている身には大金）。

「オリブの仲間と一緒にへ行ける」と
勇気を出して、2015年札幌大会に当事者、
家族のほか精神科医の協力同行も得て15名
で参加。ベテランの家の仲間を訪ねた時はあた
たかな出迎えと夕食に招かれたおもてなしの
席で、互いの病をも分かち合って友を訪ねる

喜びを体験しました。

引き続き3年後の横浜大会、終了後の
中華街での食事に笑顔がこぼれました。

次の長崎大会は遠方ですが、コツコツ
貯金をして準備をしているメンバーもいま
す。世界遺産の教会、原爆被爆地での祈り、
そして何よりも長崎のこころ病む仲間を訪ね
て互いに交流し生きる喜びを祈り、分かち合
いたいと願っています。

パラリンピック開催に 賛成・反対・感想について

事務局 小池 政男

前回号でパラリンピック開催について
の賛成・反対・感想をお願い致しました
が残念ながら寄稿は頂けませんでした。そ
こで前カ障連会長の宮永さんがイエズス
会社会司牧通信に投稿されておりましたので
関係者の了解を頂きまして掲載させていただきます。

さらに小池一個人としてネット等の資料か
らあらためてパラリンピックについて調べた
結果を掲載させていただきました。

社会司牧通信

編集・発行 イエス社会司牧センター

第220号

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5-1 岐部ホール4階

2021年10月15日発行(隔月)

e-mail: office@jesuitsocialcenter-tokyo.com

TEL: 03-5215-1844

HP: <http://www.JesuitSocialCenter-Tokyo.com/>

FAX: 03-5215-1845

東京パラリンピックの光と影

宮永 久人

大阪教区信徒、脳性マヒの障がい者
日本カトリック障害者連絡協議会(力障連)元会長

コロナ感染拡大が続く中にもかかわらず、この夏、オリンピックとパラリンピックが日本で開催されました。コロナ禍での開催の是非の問題もありますが、身体障がい者の当事者として、パラリンピックの光と影について、思ったことを記します。

光の部分としてまず述べたいことは、障がい者の存在が大きくクローズアップされたことでしょう。障がいをもつアスリートたちの活躍によって、さまざまなところに光が当てられました。

それと同時に、闇の部分で見ると、オリンピック・パラリンピック全体が土建国家の公共事業と化していました。残された多くの建物の維持費や撤収費が膨大になると言われています。オリンピック・パラリンピック全体の経費の赤字を誰が清算するのか。負の遺産があることも忘れてはならないでしょう。

それでも光の部分を見るならば、新国立競技場の建設の際、パラリンピック開催のため、さまざまな障がい者団体の意見を取り入れて、バリアフリーの建物となったことです。このバリアフリー化が、今後の競技場建築の模範的な基準になるだろうと言われてい

ます(NHKクローズアップ現代プラスによる)。

余談になりますが、日本カトリック障害者連絡協議会(通称:力障連)では、以前から、カトリック教会主催の大きなミサで、障がい者への配慮が足りないことをしばしば訴えてきました。例えば、2017年の高山右近列福式(大

阪教区)の時などです。そのような努力もあってか、東京ドームでの教皇ミサ(2019年)では、かなり綿密な準備が行われました。事前に力障連の役員が下見をして、会場責任者の電通と何度も打ち合わせを重ねました。下見に行って驚いたことは、東京ドームは



東京パラリンピックの光と影 / 宮永 久人	P.1
コロナ禍での教育と希望の光 / 鈴木 和枝	P.3
兄弟であるわたしたちが、兄弟になる——回勅『兄弟の皆さん』を読んで—— / 西村 桃子	P.5
タリタム (TALITHA KUM) 人身取引禁止ネットワーク / アビー アベリノ MM	P.7

約30年以上前の建物で、バリアフリーがあまりなかったことです。そのハンディからスタートして、何回も交渉を重ねて、種々の障がい者が満足して参加できるミサになりました。フランシスコ教皇が弱い者を特別に大事にしておられるのに、ふさわしいミサでした。

30年前に比べると、現在のさまざまな建物にバリアフリーが施されているのはうれしい点です。最近改築が進む東京の駅でも、ホームドアや斜面エスカレーターの導入、点字ブロックもスマホで読み取れる案内バーコードが入り、車椅子にバリアを感じない高さのものが開発されています。

真の闇として、心のバリアフリー化がまだまだということでしょう。パラリンピックは参加することに意義があると思っていますが、あからさまな勝利主義を標榜していた選手たちを快く思っていませんでした。オリンピックのもつ序列主義・能力主義の根には、古代ギリシャの優生思想があります。優生思想とは、優れた者だけに生きる価値があり、劣った者は生きる価値がないという考え方です。津久井やまゆり園の障がい者を殺害した相模原障害者施設殺傷事件の犯人である植松聖はこの思想の持ち主と言われています。この思想の根は深く、アテネの偉大な哲学者であるプラトンは『国家』という哲学書の中で、優生思想を露骨に述べています。古代ギリシャの人びとに優生思想があったのは確かです。

もちろん光の部分もあります。脳性マヒ障がい者である私がもっとも心惹かれたのはポッチャでした。私と同じ、それぞれの国で偏見を持たれやすい脳性マヒをもつ選手たちが世界各地から集まり、競技に没頭していました。そこには国籍や勝敗を超えて共感するものがありました。日頃偏見を持たれている脳性マヒ者が、各国において人間として遇されるようになる契機となりますように。

別の光の面ですが、私は言語障がいがあり、日頃から手話を使っています。開会式で多くの障がい者が入場してくる姿にも心打たれるところがありました。その開会式と閉会式の中継をNHK教育テレビでは、すべて手話通訳付きで行ったことも新鮮でした。手話を使う支援者の方から、とても分かりやすいと評判がよかったです。

これも余談ですが、最近、コロナについての政治家の記者会見を見るようになりましたが、横で手話通訳

者の姿を見かけるようになったのもよかったことです。ちなみに力障連の仲間の手話通訳者もテレビで時々見ることができ、うれしくなりました。



最後に闇の側面ですが、オリンピック・パラリンピックには常に国家主義がつきまといます。近代オリンピック以降、権力者の権力誇示や国威の発揚に利用されてきました。メダルを何個取るかで国家の宣伝をするのは馬鹿げています。また、オリンピックなど国際的な大会をとおして、愛国心を煽るような風潮にも疑問を感じています。国家主義を掲げ、天皇制国家への回帰を目指す政権の思惑には乗らないようにしたいと思います。



お断り

この原稿は、宮永氏が現在寝たきりで自力で長い文章を記すことができないため、英隆一朗神父(力障連協力司祭)が要旨を受けとり、加筆修正を加えたものです。

【写真①】 2019年11月25日、東京ドームでの教皇ミサ

【写真②】 聖イグナチオ教会で配信しているミサ映像には、極力字幕や手話通訳を付けている

【写真③】 同教会の前には、秋が深まった今なお、TOKYO 2020大会の残滓が見られる

パラリンピック は ぜ ひ いちこうさつ 是か否かの一考察

じむきょくちょう こいけ まさお
事務局長 小池 政男

はじめに

2020東京オリンピックとパラリンピックがコロナ禍で1年延期され、さらにコロナが収まらない状況下でオリンピック・パラリンピック開催への反対意見が多い中開催されました。

その反対意見の中でパラリンピックは優生思想を助長するものだとして、どういふことだろうかと感じました。私はパラリンピックは優生思想を払拭するために開催しているのではないかと思っていましたので、あらためて力障連としても皆さんからのご意見をお聞きしたいと前回号にお願いしたところです。しかし今回は期日も早かったせいか寄稿を頂くことが出来ませんでしたので、私なりにネット資料から一考察を書かせて頂きました。

1 パラリンピック設立経緯

障害のある人が個人的に運動として行っていたことは紀元前からあったとのことですが、それが組織的になってスポーツ活動を始めたのは19世紀以降とのこと。

19世紀、イギリスでは第1次や第2次の世界大戦で脊椎損傷などになった負傷兵の治療と社会復帰を目指すようになり、それが他の欧州の国々に広がり国際的スポーツ大会へと発展したそうです。

さらに障害対象者も脊椎損傷などだけでなく視覚障害者や知的障害者、脳性麻痺障害、手足を切断された方も参加するようになり、オリンピック開催時に合わせてパラリンピックも開催されるようになりました。

だからといって全ての障害者が参加出来る

のではないようです。IPC（国際パラリンピック委員会）の選考基準に認められた選手のみが参加できるということだそうです。

参加出来る障害者は視覚、知的、脳性麻痺、切断・機能障害（立位）（車いす、投てき台）、義足装着の方たちで、聴覚と精神障害者は参加することは出来ないそうです。なお聴覚障害者は「デフリンピック」という別の国際大会が開催されているそうです。

2 パラリンピックの目的は

IPC（国際パラリンピック委員会）は2003年の総会で公表したビジョンでは「パラアスリートがスポーツにおける卓越したのうりよく、はつき、せかい、しげき、あた、こうふん能力を発揮し、世界に刺激を与え興奮させることができるようにすること」とアスリートを中心に置いています。

さまざまな障害のあるアスリートたちが創意工夫をこらして限界に挑むパラリンピックは、誰もが個性や能力を発揮し活躍できる公平な機会を与えられている場です。

アスリートが困難なことがあってもあきらめずに限界に挑戦し続ける姿は、見る者に驚きや感動を与え、元氣や勇氣を生み出すなど、特に子どもたちにとっては素晴らしい刺激になると言われています。

パラリンピックの一番の価値は、社会を変えていく力があることです。「失われた機能を数えるのではなく、残された機能を最大限に活かそう」という精神で、それぞれのスポーツにおいて限界に挑戦していくアスリートの姿に接することで、それを見ていた人たちに大きな感動を与え、障害者の人たちがこんな素晴らしいことが出来るのに今までは社会がその可能性を見出していなかったのだと気づいてもらおうと社会は大きく変わってくれるのではないかと、そのためには東京パラリンピックを成功させなければならないと東京パラリンピック委員会の方が述べています。

3 最新の各国のパラリンピックの取り組み体制について

1) 2012年ロンドンパラリンピック体制

パラリンピックがオリンピック同時開催となり各大会開催地で大きな変化がみられるようになりました。特に2012年のロンドンパラリンピックでは、開催前から幼稚園から高校までの教育機関がパラリンピックやパラアスリート（出場選手）に関連した教材で授業や体験を行う教育をして、学んだ子供たちが両親にその魅力を伝えたことで、大人たちもパラリンピックに関心を持ち大会を成功させることが出来た。その後の大会もこのシステムが使われるようになりました。メディアも大会前からパラリンピックや選手たちの紹介を含めて取り上げて、パラリンピックや選手の社会的関心を強めました。

その結果、ロンドンではパラリンピックを境に、成人の3分の1の2,000万人が障害者に対して態度が変わったとアンケートが示しているそうです。

2) 2008年北京パラリンピック体制

同じくロンドン大会の前の2008年の北京パラリンピックでの中国も1億2,400万ユーロ以上の費用を掛けて大会会場近郊だけでなく中国全土の道路、交通機関、公共施設、ホテル、万里の長城といった主要観光スポットなど、約14,000か所を対象に大規模なバリアフリー化の施設整備を行ったと国際パラリンピック委員会から発表されました。

さらに開催年に障害のある人に対する改正法が施行され、障害のある人が平等に社会生活に参加出来るよう、社会保障や雇用の改善、アクセシビリティ（利用者が機器、サービスを円滑に利用されること）を促進するという内容が盛り込まれており、中国社会の変化を後押しする大きな一歩になったようです。

3) 2014年ロシアのソチパラリンピック体制
ハード面で飛躍を遂げた中国に対して、ソフト面で飛躍を遂げたのが2014年ロシアでのソチパラリンピックでした。

まずロシアでは初めてボランティア運動が発展したことである。

各地区にボランティアセンターを作り、ボランティアのトレーニングベースになり、2,800ものパラリンピック関連のプロジェクトが実施されました。

その一つとして大会関連施設や横断歩道などで、車いすマークのある駐車場、視覚障害者のためにアクセシビリティ（利用の便利性）、車いす用のエレベーターなどボランティアが見つけ出しリスト化。バリアフリー情報として掲載した。

このソチの例はその後も続けられ、現在では国内の200都市にアクセシビリティマップが作られている。

大会関係者のボランティア担当をしたマネージャーは「パラリンピックはロシア全体を変え、国民を一つにし、障害のある人たちに對する社会の態度を変えた」。

その後の2016年のリオパラリンピックもこれを引き継いだ。

4) 2016年のブラジルのリオパラリンピック体制

リオもアクセシビリティに100万ユーロ近く掛けて道路の整備、スロープ、視覚障害者用誘導ブロックの設置と法的な整備も進み、交通、住居、サービス、教育、スポーツ、市民権の行使における障壁を取り除く新しい法律も出来た。

メディアに関する数字も特筆に値する。

リオパラリンピックは154の国と地域でテレビ放映され41億人が視聴した。これは今までで最高の視聴者だった。更にブラジル国内の放送も247時間累計視聴者数は4億7200万人に達した。テレビ観戦をきっかけに、ブ

ラジルの多くの人たちが障害者に対する意識を変えたに違いないと。実際その後もアクセシビリティが改善されており、その後のパラ大会でもボランティアが継続されている。

さらにリオパラリンピック後の障害者の就職率は開催前から49%も増加している。

5) 2020年東京パラリンピック体制

それでは東京大会はどのようなことが行われたのか見ると、

①政府等行政機関、民間や組織、企業からの支援体制で選手の競技力向上をサポート。

②学校にIPCが作成したテキストを日本の協会が整備して全国の小中高の学校に配布し啓蒙活動を推進。

③パラリンピックやアスリートたちのテレビ、新聞などのメディアを通じて高めた。

④ITによってスマートフォンを使った聴覚障害者に対する会話、インターネットによる買い物、通訳ソフトの開発、ロボットによる生活補助、施設やイベントの案内などを進めた。

その結果、日本の選手は日々大活躍と感動を私たちに与えてくれました。

そして多くの金、銀、銅のメダルを獲得し、日々テレビでの視聴率は上がっていきました。

日本ではこれほど今まで障害者の大会に対してテレビで観戦することはなかったと思います。

パラリンピック開催結果について11月8日の東京新聞でパラリンピックに対する報告が掲載されました。

大会の開催前2019年度には障害者への理解が62%に対して72%に上がりました。しかし、細かく見ていくと一般の認識は上がりましたが、日々障害者に接している人々たちからのいじめはあまり変わりませんでしたという残念な結果もうかがえます。

確かに大きな障害を持った人が活躍し多くのメダルを獲得して私たちに感動を与えてくれたと思います。

パラリンピックの視聴率も大いに上がったと思っています。いつもはオリンピックアスリートの人たちが多くテレビで紹介されていましたが、今回の東京大会は最初からパラリンピックのアスリート紹介ばかりでした。私は嬉しいと思っていましたが、今回調べてみてうなずくことが出来ました。

しかし、政府及びパラリンピック委員会としては如何にメダルを取るためにアスリートの皆さんに支援を注がれましたが、残念ながら過去のロンドン、中国、ロシア、ブラジルなどの国々がまずは障害者への対応、共生社会に積極的に取り組んだ政策をしているのに、日本ではメダル獲得に終始し一番大切な共生社会を作る体制がなされていなかったことに気が付きました。残念に思いました。私たちももっと早くパラリンピックについて学んでいたら声と行動が出せたのかも知れません。

4 パラリンピック反対意見

インターネットの掲載されている主な記事の中から反対意見を列記してみました。

- ・コロナ感染が拡大する中での東京大会は人の命より開催優先している。
- ・パラリンピックは元々戦傷者のリハビリから始まったものである。
- ・競い合うことで社会復帰を促すのが原点である。
- ・スポンサーから支援を受けられる一握りのパラアスリートが競い合う大会。
- ・IPC（国際パラリンピック委員会）の定めた厳しい選考基準をクリアした選手だけが参加できる特別な大会。
- ・パラリンピックは障害を持つ多くの人とは無縁の世界です。
- ・オリンピックとパラリンピックは別のもの

です。オリンピックの中で多様性を謳って
も、決して一緒には出来ません。

- ・パラアスリートの記録がオリンピックのメ
ダリストの記録を追い越す勢いの競技もあ
りますが、オリンピックの大会への参加は
しりぞかれました。なぜかと言えば「障害」
を克服して一流にたどり着いたトップ・アス
リートの姿は、人々に感動を与え、「健常」
と言われる人々に努力を求める格好の
道徳教育になります。実際にコロナ禍の中
で子どもたちにパラ観戦が検討されました。
- ・与えられた枠組みの中で顕彰されるパラリ
ンピックは真の障害者理解とは程遠いもの、
私たちの求めるインクルーシブな社会は、も
っと身近なところからしか始まらないと思
います。障害を持つ人とそうでない人、障害者
の中にも、より差別と分断、そして優生思想
を内包するのがパラリンピックです。
- ・オリンピックもパラリンピックも膨大な
建設費とその後の維持管理が財政を圧迫す
る等。

またロゴス点字図書館の通信の巻頭言「あ
けのほし」で菊地大司教様がパラリンピッ
ク精神について書かれているそうですし、
日本カトリック正義と平和協議会ニュースレ
ター（JP通信230号2021.10.1発行）では
浜矩子氏（カトリック評論家）と中野晃一氏
（上智大学国際教育学部教授・政治学）のパ
ラリンピックについて強い反対意見が掲載さ
れているそうです。

残念ながら上記の内容を得ることが出来ま
せんでしたので、出来ましたら皆さまは見て
頂きパラリンピックについてさらに理解を深
めて頂ければ幸いです。

今回初めてパラリンピックについて調べ、
まだまだ色々な意見があると思いますの
で、パラリンピックの是か否の判断を書くこ
とは出来ませんでした。その判断と今後の
情報収集は皆さまにゆだねたいと思います。

読者からのご意見と その回答について

事務局長 小池 政男

ご意見の趣旨

『私は長く精神の人を含めてボランティア
しています。カ障連の機関紙「わ」会報の中
で「障害」という表記を使われておりますが、
この表記を見ると「障害者＝害」となり、心
が痛みます。社会は「障がい者」という表記
に代わって来ているのでカ障連も「障がい
者」と表記を変えて頂きたい。またカ障連と
して「障害」の表記を使う理由があるのなら
その意味を教えてください。』という意見で
した。

回答

前回の93号でカ障連に対する質問等頂き
たいと掲載させて頂きました。早速ご意見を
頂きありがとうございました。

確かに昔から障害、障、障がいの表記に
ついて色々な意見がありました。

私がカ障連の役員になった時に、今は帰天
された中原元会長に、なぜカ障連は「障害」と
表示するのですかと聞いたことがありました。

元会長は、カ障連は、障害者の立場を向上
するためには法律等含めて変えて頂く使命
を持っているので、法律用語に合わせた
「障害」を使っています。とお聞きした思い
があり、私もその時は納得致しました。

今回改めて「障害」の表記について、DPI
の資料に良くまとめられているものを紹介さ
せて頂きました。DPIはご存じの方が多いと
思いますが、1981年の国際障害者年を機に
シンガポールで国際障害者運動のネットワ
ークが結成された団体です。現在は130か国が
加盟しております。その中でDPI日本会議は、
過去に政府の見解を含めてまとめられたメッ



障「害」か、障「がい」か

「障害者」「障碍者」「障がい者」など障害のある人をめぐる表記の使い分けについて、私たちは「障害」は機能障害をもつ人が抱える社会的な不利は社会のバリア（障壁）によって生じるものであり、その点を象徴する表記として「障害」のままで変える必要はないと考えます。なお「障碍」については、本来仏教語に由来する「障碍」の語源に関する問題もあるため、よい意味をもつものではなく変える意味はないと思います。またひらがな表記の「がい」を使って「害」の字を表面上避けることは、障害者の社会参加の制限や制約の原因が個人の属性としての機能障害にあるとする医学モデル（個人モデル）にもとづくものであり、医学モデルから障害を個人の外部に存在する種々の社会的障壁によって構築されたものとしてとらえる社会モデルへの転換こそが障害者権利条約の根幹でもあることから、賛成できません。ただし、「害」を含む障害に対して、嫌悪感をもつ一部の当事者や家族や関係者自身が「障がい」表記を用いることを否定するものではありません。

なお、二〇〇九年の内閣府「障がい者制度改革推進本部」下に設置された「障がい者制度改革推進会議」では「障害」の表記のあり方が検討され、結論として「法令等における『障害』の表記について、見解の一致をみなかった現時点において新たに特定の表記に決定することは困難である」と述べられています（二〇一〇年「障害者制度改革の推進のための第二次意見」）。

セージです。

この中で言っていることに「障害者」「障碍者」「障がい者」の表記の基本的な考え方が記されています。

① 私たちの「障害」は機能障害をもつ人が抱える社会的な不利は社会のバリア（障壁）によって生じるものであり、その点を象徴する表記として「障害」のままで変える必要がないということです。

② 「障碍」は本来仏教語に由来する「障碍」の語源に関する問題があるため、良い意味を持つものではないということです。

③ 「障がい」として「害」の字を表面上避けることは原因が障害をもっている個人にあるとする医療モデル（個人モデル）になってしまっているので、そうではなく障害を持っている人が社会参加できない障壁を取り除くことを基本とする社会モデルのために私たちの使命がある。

（医療モデル（個人モデル）から社会モデルへは機関紙「わ」の90号2020.9.1発行をご覧ください）

カ障連とDPI日本会議は創立の頃から役員を含めて深くつながっておりますので、ともに同じ考え方で「障害」の表示がなされてきたと思います。そして今後も「障害」の表記を使い、「障害」の「害」は個人ではなく社会に問題がある社会モデルに向かって歩んでいきたいと思っておりますので宜しくご理解いただければ幸いです。

障「害」「がい」DPIコラム

連絡先及びご入会の申し込み先

事務局：〒466-0037 名古屋市中区昭和区恵方町2-15

名古屋教区カリタス福祉委員会室内

日本カトリック障害者連絡協議会

Tel：052-852-1426 fax：052-852-1422

郵便局振替口座番号：00100-7-31254

（同封の振込用紙をご利用ください）

会費：年間1口 1,000円

（団体 10口以上 個人 1口以上）

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会